

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

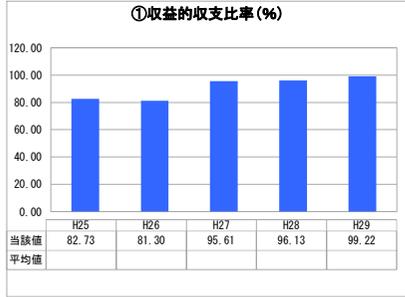
熊本県 南阿蘇村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	7.27	100.00	3,750

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
10,846	137.32	78.98
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
780	9.80	79.59

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

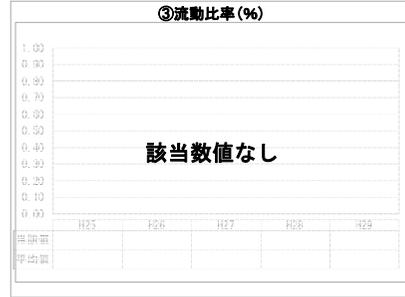
## 1. 経営の健全性・効率性



「単年度の収支」



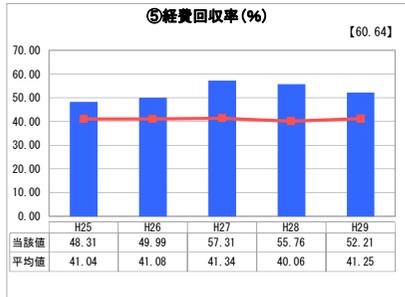
「累積欠損」



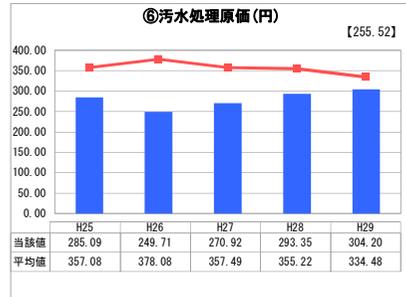
「支払能力」



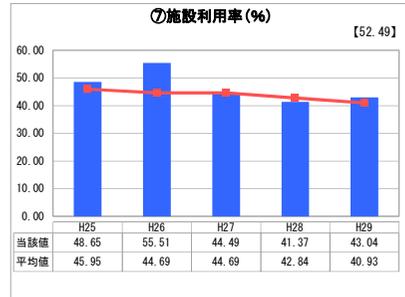
「債務残高」



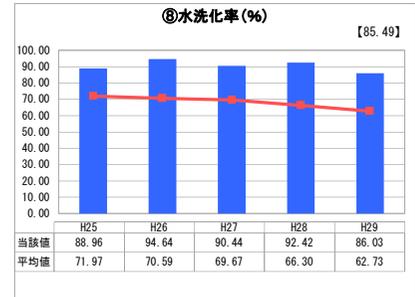
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

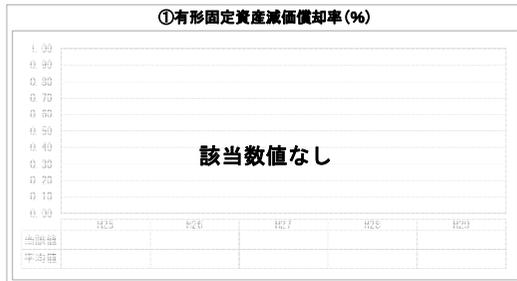


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は高く推移しており、経費回収率も平均値よりは若干上回っているが、事業の維持管理費を使用料で賄えていないため、歳入の削減と歳入の確保、特に収入増加に向けた取り組みが必要になると思われる。

汚水処理原価については、平均値よりも低くなっているが、使用料では維持管理費を賄えていないため、今後も経費削減に努める必要がある。

施設利用率は、ほぼ平均値と変わらないものの、今後、少子高齢化に伴い汚水処理人口の減少が予測される。

水洗化率についても平均を上回っているが、今後人口減少が見込まれるので、水洗化率の促進を進めていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

平成17年から供用開始しているが、13年を経過し中継マンホールや処理場において修繕業務が増加している。平成29年度に機能診断調査を行い、平成31年度に最善整備構想を実施する予定であるが、適切な維持管理を継続していくために財源の確保が急務である。

### 全体総括

今後、施設の老朽化による維持管理費の経費の増加が見込まれ、経営的には厳しくなることが予想されるが、現状では使用料収入では維持管理費を賄えていないため、使用料の見直しの検討が必要である。平成31年度に最善整備構想を実施する予定なので、その結果を踏まえ長寿命化の計画を策定し施設の改良・更新を進めていく予定である。

経営戦略は、平成31年度に最善整備構想の中でストックマネジメントを行い、平成32年度までに策定予定である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。